

特集

次期学習指導要領の 具体的な姿

- | | | |
|----|---|------|
| 22 | 新しい教育課程の目指すところ | 無藤 隆 |
| 26 | 高等学校における教育課程改訂の意義 | 高木展郎 |
| 30 | 高校での各教科・科目の変更点について | 大杉昭英 |
| 34 | 高校の地歴・公民科の新たな形 | 田中愛治 |
| 38 | 次期学習指導要領に備える
—「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげる— | 中島博司 |

巻頭インタビュー

- | | | |
|---|----------------------|------|
| 5 | 次期学習指導要領のポイントは何か？<下> | 市川伸一 |
|---|----------------------|------|

特別企画・新会長インタビュー

- | | | |
|----|----------------|-------|
| 42 | 変わる高校教育と教頭・副校長 | 小芝 一臣 |
|----|----------------|-------|

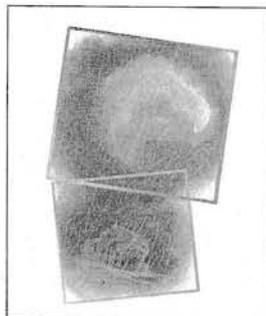
≡ 表紙のことば

「地球温暖化」

西日本では毎日40度近い猛暑、北海道では1週間に3つの台風。北極圏では数万年続いてきた永久凍土が溶け始めている。こうした現象は急速な地球温暖化の始まりです。

杉山 司（一陽会）

表紙デザイン／杉山 司
制作協力／ジャーナルサポート



10	ちょっと拝見 学校訪問 神奈川県立田奈高等学校	妹尾昌俊
46	高校教育あれこれ〈20〉 高校教育とルーブリック	児美川孝一郎
48	荒瀬克己の「おとなの探究基礎」〈31〉 使命の自覚	荒瀬克己
52	管理職のためのアクティブ・ラーニング入門〈6〉 アクティブラーニング型授業の普及を目指して	服部保孝
56	輝け高校生Ⅱ〈20〉 SSHの探究を普通科・美術科に生かす	廣瀬志保
60	悲鳴をあげる学校〈128〉 過ぎたるは及ばざるが如し(18) ～「いじめ件数調査見直し」による混迷④～	小野田正利
64	ミドルが元気な学校づくり〈8〉 ミドルリーダーを軸とする学校づくり	長井勘治
68	校長サブⅡ ～管理職の哲学ノート～〈44〉 教育実践への夢	関根 均
72	大学の實力〈19〉 就職実績だけで大学を評価していいのか	小林哲夫
74	時の眼〈151〉 朝食をとる子は本当に学力が高いのか?	耳塚寛明
76	大学入試新常識〈20〉 私立医学部学費の最新事情	坂口幸世
78	社会を元気にする高校生たち〈44〉 人を見た目で判断しないで アイスに込めた思い	西健太郎
80	管理職の「超」基本〈56〉	白鳥秀幸
82	今月の学校講話〈56〉 地区PTA	米澤光人
84	総合研究 教育と法〈92〉 学校における「性」に関する現代的問題点	星野 豊
88	私学教育最前線〈32〉 いじめのない学校づくりを目指した私学改革	上山功夫
92	教育政策動向ウォッチ〈8〉 教職の「魅力低下」、放置していいのか…?	渡辺敦司
16	世界教育紀行〈56〉 サンクトペテルブルクを訪ねて	多賀幹子
18	学食バンザイ!!〈116〉 東洋大学麺匠シマダヤ 編	今 柊二
20	心を耕す名言・名ゼリフ〈140〉 「大きな声を出すとボールも怖くない」	岡崎武志
44	全高長だより 東海四県高等学校長連絡協議会ほか	小栗 洋
45	教頭・副校長会だより 平成28年度『研究集録』編集委員会ほか	錦織政晴
94	今月の書評 『下り坂をそろそろと下る』	海野省治
95	教頭日誌〈127〉 学校をつくるということ	
96	日本学生支援機構だより	日本学生支援機構
98	今月の教育ニュース 教科書会社不正問題の波紋 拡大する物品・金品の提供	
100	編集後記	

次期学習指導要領に備える

「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげる

中島博司 (茨城県立並木中等教育学校校長)

「アクティブ・ラーニング」セカンドステージ

2016年8月26日に、中央教育審議会教育課程部会から「次期学習指導要領に向けた審議のまとめ」が公表され、いよいよ学習指導要領改訂が本格的になってきた。特に、今回の改訂のキーワードの一つである「アクティブ・ラーニング」(以下、一部を除きAL)は、「主体的・対話的で深い学び」と説明され、現在、高校現場でもたいへんな関心事となっている。

私は、2015年4月に校長になって以来、「アクティブ・ラーニング」と「二つの新テスト」と「次期学習指導要領」の三つのテーマについて研究を進めている。最近では、各所でAL関係の研修会講師も務めている。

2015年は、まさに「高校アクティブ・ラーニング元年」と言える年であった。AL関係書籍の発行が続き、AL関係のセミナーや講演会は満席が続いた。年が明けて、2016年は「アクティブ・ラーニング・セカンドステージ」だと捉えている。そして、高校におけるALの草創期であり、土台作りの時期にあたるこのセカンドステージが非常に大切である。

本稿では、「次期学習指導要領に備える」と題し、特に高校におけるALに焦点をあて、現在私が考えていること、AL関係で考案した二つのもの、本校でのALの取組等について述べることにする。

ALを学力向上につなげる「AL指数」と「R80」

(1) A Lについて考えていること

私は、A Lの目的は「アクティブラーナー（能動的学習者）」を育成することだと考えている。そして、「アクティブラーナーを育成することを目的としている授業は、みなA L型授業である」としている。A Lには、大きく分けて「イベント型」と「通常授業型」がある。これまで、高校現場でも、課題研究等「イベント型」のA Lは数多く実践されてきた。しかし、現在、高校の先生方が追究し、関心を寄せているのは「通常授業型」のA Lである。

A L研究の過程で、多くのA L型授業を見たり、セミナーに参加したりしたが、次のことが課題であると考えている。

- ① A L型授業が形だけになってはいないか。
- ② アクティブラーナー（能動的学習者）の育成という目的に向かっているか。
- ③ A Lか講義かという二項対立的な議論になっていないか。
- ④ ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか。

以上の課題に対応するために、私は、「A L指数」と「R 80（アールエイティ）」を考案し、現在、この二つを全国に発信している。以下に二つについての解説を記す。

(2) 「A L指数」について

特に③の課題に対して、2016年3月に考案したのが「A L指数」である。「A L指数」とは、A Lの実施率を示す指数である。たとえば、50分授業でA L5分間なら「A L10」、A L10分間なら「A L20」である。また、週5時間の授業でA L1時間の場合も「A L20」となる。

現在の高校の授業は、たいへん指導内容が多いため、従来の知識伝達型の講義も必要である。高校においては、A L化を極端に進めることにはリスクを伴うとさえ思っている。現在、私を考える高校A Lの理想は「A L20」である。つまり、1時間の授業の約2割をA L化することである。

高校A Lは、講義にA Lを導入するというイメージの「ハイブリッド型」がベストであろう。それでも、A Lに抵抗を感じる場合は、まず講義の中に、スパイスのようにA Lを2〜3分入れてみるといい。最も簡単かつ効果的なのは「ペアワーク（隣の人と話し合う）」である。この場合、A L指数は「A L5」となる。

また、この「A L指数」を活用することで、「A Lの研究」が進むことを期待している。たとえば、A Lの効果の検証等に、この指数を横軸として使うことができるということである。

(3) 「R 80」について

次に前述④の課題に対応するために、2016年5月に考案したのが「R 80」である。その説明は以下の通りである。

1. 「R80」の読みは「アールエイティー」
2. Rは「リフレクション(振り返り)」と「リストラクチャー(再構築)」のR
3. 80は、自分で80字以内の文章を書くという意味
4. 基本ルール① ALの最後に、リフレクション(振り返り)として、ペアやグループで話し合ったことなどを、リストラクチャー(再構築)して、80字以内で書く。
5. 基本ルール② 必ず二文(二センテンス)で書き、その二文を接続詞で結ぶ
6. 目的 思考力・判断力・表現力、そして論理力を育成する
↓それが学力向上につながる
7. なぜ二文80字以内か 一文は50字前後が理想とされている
(簡潔に明確に書く)
8. 「新テスト」の記述式問題への対応策にもなっている

おそらく、「ALは学力向上につながるのか」ということが、今後、高校では最大の課題になるであろう。そして、この課題をクリアしなければ、高校の普通の授業にはなかなかALは浸透していかないだろう。一方、従来の講義よりもAL型授業の方が学力向上につながる事が明らかとなれば、ALは高校授業のスタンダードになる可能性が高い。

そこで、ALを学力向上につなげるために考案したのが「R

80」である。文章を書くことが苦手な高校生には、確かに少しハードルが高いかもしれないが、ALを「セカンドステージ」に引き上げるためのアイテムである。すでに、本校をはじめ、茨城県内の高校で活用している学校がある。文字数が少ないので、4〜5分で書けるという報告が寄せられている。今後、多くの先生方の工夫・改良を経ながら「R80」が全国の教室に広がっていくことを期待している。

なお、私の考案した「R80」の様式のエクセルデータとPDFについては、本校(並木中等教育学校)のホームページ上の「AL宝箱」に入っている。ダウンロードして自由に改良して使っていたら結構である。

R80 (アールエイティー)	
年組	氏名
課題・タイトル	20 40 60 80
下書き	20 40 60 80 100
FREE①	
FREE②	
R80に関する解説	
基本事項	R80の読み方は「アールエイティー」です。 Rは、リフレクション(reflection)と、リストラクチャー(restructure)のRです。 80は、80字以内で書くという意味の80です。
基本的な使用法	①アクティブラーニング(AL)の最後に、リフレクション(振り返り)として、ペアやグループで話し合ったことを、自分でリストラクチャー(再構築)して、80字以内で書きます。 ②必ず、2文(2センテンス)で書き、2文を接続詞で結びます。 ③下書き欄やFREE欄の使い方については、先生の指示を受けてください。
使用する接続詞の例	●順接(したがって、ゆえに、だから) ●逆接(しかし、だが、ところが) ●並列(また、ならびに、かつ) ●対比(一方) ●換言(つまり、すなわち) ●理由説明(なぜなら) 他